

平成28年度第1回習志野市市民協働推進委員会 会議の概要

1	会議名	平成28年度第1回習志野市市民協働推進委員会
2	開催日時	平成28年5月20日(金)午後1時00分から3時00分
3	開催場所	サンロード津田沼 6階特別会議室
4	出席者	<p>【委員】 鎌田委員(委員長)、江澤委員(副委員長)、 井上委員、牧野委員、石津谷委員、杉山委員、 野手委員、和田委員、佐々木委員</p> <p>【市側】 齋藤協働経済部長、松岡協働経済部次長 【事務局(協働政策課)】 小久保主幹、上野市民協働推進係長、佐々木主任主事 傍聴者:2名</p>
5	議題及び 会議の概要	<p>1. 挨拶及び職員紹介 2. 会議録署名委員の指名 3. 議題 (1)市民活動団体支援の施策について (2)協働政策課事業の平成28年度協議事項について (3)平成28年度習志野市市民参加型補助金の審査について 4. その他</p> <p>【会議の概要】 1. 挨拶及び職員紹介 協働経済部長より挨拶及び職員紹介 2. 会議録署名委員の指名 名簿順により、石津谷委員と和田委員を指名。 3. 議題 (1)市民活動団体支援の施策について 事務局 資料1について説明。質 疑.....</p> <p>牧野委員 公共サービス市民協働提案制度の仕組みについて教えていただきたい。</p> <p>事務局 事業改善提案がされた場合は、担当課の意見および第三者機関である市民協働推進委員会に諮った後、提案受け入れの有無を決</p>

	<p>めます。</p> <p>また、市民協働事業の周知については、一覧表をホームページに掲載を行っております。また、昨年度までは前年度に行った事業について各課に調査を行い、ホームページに掲載をしておりましたが、今年度は、平成28年度に行う予定事業について調査を行い掲載する予定です。</p> <p>しかしながら、近年同制度の提案件数が少ない現状があるため、皆さんに提案していただけるような制度に改善して行きたいと考えております。</p> <p>牧野委員</p> <p>他市では協働事業提案制度は予算を伴い担当課とやりたい企画提案を指すもので、審査を経てその提案がよければ翌年度に担当課が予算をとり事業を実施していく形が多いようです。</p> <p>また、市が市民と一緒にやったほうがよいテーマを出して、そのテーマに対して事業募集を行う形が他市では多いようです。</p> <p>改善提案だけ受付を行っている形では疑問があります。</p> <p>また、改善された事業の評価についてはどのように行われるのか見えません。</p> <p>事務局</p> <p>この制度が始まった年は15件の提案がありましたが、昨年度、エーザイ株式会社から認知症サポーター養成事業の提案があり、市民協働推進委員会に諮り、提案受入れを採択し、現在は高齢者支援課と協定を締結し、事業を実施しているところです。</p> <p>提案制度が始まった翌年から平成25年度まで0件で平成26年度に1件、翌年度0件となっている状況であることから、制度の使いにくさがあると考えており、制度の改善を考えております。</p> <p>鎌田委員長</p> <p>提案制度について我孫子市でも先進事例があると思います。</p> <p>また、市の部課長会議で市民協働について発表を行うとのことですが、どなたが発表するのでしょうか。</p> <p>事務局</p> <p>発表は協働政策課が行います。</p> <p>江澤委員</p> <p>スキルアップ講座について教えていただきたい。</p> <p>事務局</p> <p>各団体が市民活動を進めるにあたり、運営資金の確保は重要です。併せて、運営資金の確保に苦労している現状があります。そうしたことを改善すべく、千葉県では、自治体に対して市民活動団体向け講座の提案募集をしていることから今年度、本市において市民</p>
--	--

	<p>活動団体のスキルアップを図るために、千葉県の講座に応募しました。</p> <p>また、これまでに広報の仕方やチラシの作成方法などの講座を開催しております。</p> <p>今後も各市民活動団体の意見を伺いながら講座内容を考えたいと思っております。</p> <p>石津谷委員</p> <p>地域デビュー支援事業は行き詰まっており、活動内容の変更を考える時期に来ていると感じており、話し合いを行っています。</p> <p>市民参加型補助金制度については、団体・事業が自立することを考えてもらいたいと思っています。</p> <p>杉山委員</p> <p>地域デビュー支援事業等で地域課題を解消する取組の抽出はどのように行っていますか。</p> <p>提案ですが、地域課題を解消する講座を開催して、そのテーマで参加した人たちを集めて市民活動団体を立ち上げるというのはいかがでしょうか。</p> <p>例えば、貧困家庭の子供たちを対象としたこども食堂がメディアにも取り上げられており、地域でやりたいと考えている方もいるので、そのような講座を開催して、実際に団体を立ち上げて事業を行いたいと思った方に取り組んでもらえば地域課題も解決するのではないのでしょうか。</p> <p>地域デビューの中でそういった内容を考えていってもよいのではないのでしょうか。</p> <p>石津谷委員</p> <p>団体を立ち上げるには、資金や場所の提供など問題が出てくると思います。</p> <p>杉山委員</p> <p>事業を行うにあたり、様々な課題が出ると思います。</p> <p>市等に何をしてもらいたいのか、何ができるのかを相談できる講座にしなければいけないと思います。</p> <p>牧野委員</p> <p>地域デビュー事業が始まって6年が経ち事業がマンネリ化していると思います。2007年問題の時に県の事業費を得て習志野市を会場としてNPOクラブで行った事業を引き継いで行っている事業だと思いましたが、今は団塊世代を今ある団体に呼び込むのはだめだと思えます。</p> <p>また、今ある団体に新しい人を呼び込む形もだめだと思えます。新しい方たちに聞くと、今ある団体に入って活動を行うのには抵抗があるということです。新しい団体を作っていくことが必要だと思</p>
--	--

	<p>ます。現在の地域デビュー事業実行委員会の形式ではない方法を考えた方がよいと思います。</p> <p>さらに、現在の地域デビューには評価をするにも指標等が決められていないので評価ができないと思います。</p> <p>世の中では、社会的インパクト評価という評価制度が取り込まれています。</p> <p>指標をたてて事業をどのようなプロセスで取り組んで行くのかを決めて、結果を公表していく形にしていってほしいのではないのでしょうか。</p> <p>現在の地域デビュー支援事業の実施方法を変えた方がよいと思います。</p> <p>石津谷委員</p> <p>地域デビュー支援事業を6年実施してきましたが、私の団体に、体験に来てくださる方は結構いますが、定着したのは1名だけでした。見学や体験をする人の対応を行うスタッフの負担が大きいだけの状態です。</p> <p>今の地域デビュー支援事業のやり方ではそろそろ限界だと感じていきます。</p> <p>井上委員</p> <p>新しく団体を作って活動することは良いことだが、必ず「お金」、「宣伝力」と「人材」の壁にぶつかると思います。既存団体も同じ悩みを抱えながらやっています。</p> <p>地域デビュー支援事業のようなインターンシップ的な形態は体験を受け入れる方が大変だと思うので、人材等の情報についてまとめる場所がなければ厳しいのではないのでしょうか。</p> <p>杉山委員</p> <p>新しい団体を立ち上げるのということで資金をどこで得るか、拠点、協力してくれるところはあるのか、そういう情報提供を行っているところはあるかなどの相談はあるが、今、どんな課題があるかということがでてこない状態です。団体の立ち上げ方支援、協働化はどう進めていけばよいかかわからないのでは無いかと思います。課題を抽出していかないといけないと思います。</p> <p>野手委員</p> <p>商工会議所では、2年ほど前から福祉分野で独立開業を目指す人のために「きらっとハッピー福祉塾」を行っています。参加者は、福祉関係の仕事をしている方です。実際に独立するには法人の立ち上げや県への書類提出などの壁があります。そこで、申請関係の手続きの仕方から資金に関することまで支援を行っています。しかし、独立する方は2割くらいです。</p> <p>今年度はこども食堂開設についてご相談を受けています。今年は、今までより実践的な取組を行っていきたいと考えています。</p>
--	---

		<p>和田委員 市でも子ども食堂に関心をもっており、いろいろなところから情報が来るようになってきています。施設再生の関係でも話題が出たり、社会福祉協議会や協働政策課から相談がありました。相談に来る方から「行政は何をしてくれるのか」と質問があるので、行政としては、情報提供をしていきたいと考えています。</p> <p>石津谷委員 市で貧困家庭の子どもの実数は把握していますか。</p> <p>和田委員 生活保護や一人親家庭など市が関わりを持っている方は把握していますが、その他にも沢山いると思いますが全ては把握できていない状況です。</p> <p>杉山委員 行政や社会福祉協議会などで制度を基に把握しようとする壁がある(個人情報等)ので、市民の方がグループを立ち上げて協働でやっていく仕組みが必要ではないでしょうか。制度でやろうとするとどうしても時間がかかってしまうので、まずは、市民の方で活動していただいて制度につながる形があってもよいと思うので、地域デビューや市で行う講座などで提案されるとよいのではないのでしょうか。</p> <p>佐々木委員 社会教育課として市民カレッジを担当しています。市民カレッジの目標としては、卒業後には地域貢献できる市民になってもらいたいと考えています。また、地域活動や趣味などを通して生々と暮らしていただきたいと考えております。 どのような方向で卒業後に活動をしていくかを2年間で考えていただくために、地元を学んだり、仲間を作ったり、様々なボランティア体験を行ったりしており、社会福祉協議会にはボランティアについての講座や体験等をお願いしています。 鎌田委員にはまちづくりについて、実際にまちづくりに関わっている方々の話や市の枠組みや自分達の地域課題について授業の中で取り上げていただいています。 カレッジ生は卒業後に既存の団体に加入して活動する方や、2年間共に学んだ仲間でグループを作って活動されている方が多いです。今年は、カレッジ生に市内の市民活動団体を広く知っていただきたいと思っていることから地域デビュー事業とタイアップしていきたいと考えています。 大久保地区再生事業のなかで新しい施設の一部に地域の問題解決機能であるフューチャーセンター機能を取り入れたいと考えており、現在、民間提案を募集している状況です。</p>
--	--	---

	<p>井上委員 提案を募集している対象はどのような相手先ですか。</p> <p>佐々木委員 今募集しているのは、施設の設計、建築、管理運営(20年間)の3つセットでやっていただける業者を募集しています。業者が運営するなかでフューチャーセンター機能を取り入れてくださいということを示しているため、業者は市内のNPOや市民活動団体と連携して行く必要があります。</p> <p>鎌田委員長 市民協働のマスタープランのような計画の作成をしたら事業の位置づけやNPOや社会福祉協議会などの役割が誰もがわかりやすいのではないのでしょうか。</p> <p>(2)協働政策課事業の平成28年度協議事項について 事務局 資料2-1~2-4について説明質 疑.....</p> <p>鎌田委員長 改善できるところから事業を改善していき、本来の展開しつつある協働事業に次年度から近づけていくというのが先ほど出た意見だと思います。変化をすることを恐れずに改善できる部分は変えていただきたいと思います。</p> <p>江澤委員 資料2-2の事業は今年度から実施する事業でしょうか。 また、メリットというのは、どういう意味でしょうか。</p> <p>事務局 公共サービス提案制度は今までも実施しており、事業を実施することがメリットにつながっています。</p> <p>江澤委員 資料2-3の目標として、事業が継続されているかを確認するとあるが、ぜひ実行してもらいたいと思います。 先日、平成27年度市民参加型補助金の実績報告会に参加したが、素晴らしい活動もあり今後の活動が気になっています。</p> <p>牧野委員 資料2-3のこれまで採択された団体の事業がどうなっているかということだが、必ずしも継続されていなくてもよいと思っており、ニーズが無ければ事業を変化させていくことは大切であると思う。事業</p>
--	---

		<p>を変更、廃止した理由や新たに始めた事業について課題などを伺うことが有効なのではないかと思ます。</p> <p>(3)平成28年度習志野市市民参加型補助金の審査について 事務局 資料3-1について説明。平成28年度市民参加型補助金審査委員の推薦をお願いしたい。</p> <p>鎌田委員長 審査委員の推薦については、市民協働推進委員の内、市職員2名を除く8名を推薦したいと思います。</p> <p>事務局 資料3-2～3-5について説明。 平成27年度に使用した市民参加型補助金 二次審査採点票と同じ採点票を使用してよろしいでしょうか。また、昨年同様、審査委員に関係する団体から補助金の申請があった場合には、その事業の審査に加わらないとしてよろしいでしょうか。</p> <p>各委員 意見なし</p> <p>鎌田委員長 特に意見がないようですので、事務局から説明のあったとおりとさせていただきます。</p> <p>5. その他 杉山委員 市民参加型補助金を募集する方が重複しているように感じるので、もっと幅広い方に知っていただき応募していただけるようにできないかと思っています。 情報提供はホームページだけなのでしょうか。</p> <p>事務局 市広報、ホームページ掲載、公民館及び市民活動団体にチラシの配布を行っております。</p> <p>事務局 次回の市民協働推進委員会は12月中旬を予定しております。</p> <p>.....閉 会.....</p>
6	問合せ先	<p>所管課名:協働政策課 電話番号:047(453)9337</p>

平成28年度第2回習志野市市民協働推進委員会 会議の概要

1	会議名	平成28年度第2回習志野市市民協働推進委員会
2	開催日時	平成28年12月19日(月) 午前10時から正午
3	開催場所	サンロード津田沼 6階特別会議室
4	出席者	<p>【委員】 鎌田委員長、江澤副委員長、井上委員、牧野委員、石津谷委員、野手委員、和田委員、佐々木委員</p> <p>【市側】 松岡協働経済部次長</p> <p>【事務局(協働政策課)】 小久保主幹、上野市民協働推進係長、佐々木主任主事</p> <p>傍聴者:なし</p>
5	議題及び会議の概要	<p>1. 会議録署名委員の指名</p> <p>2. 議事</p> <p>(1)協働政策課評価対象事業の経過について</p> <p>①習志野市公共サービス市民協働提案制度</p> <p>②習志野市市民参加型補助金</p> <p>③市民協働型委託事業(地域デビュー支援事業)</p> <p>④その他</p> <p>(2)習志野市市民協働インフォメーションルームに関する要領について</p> <p>(3)習志野市市民参加型補助金平成28年度採択事業の実施状況について</p> <p>3. その他</p> <p>【会議の概要】</p> <p>1. 会議録署名委員の指名 名簿順により、佐々木委員と野手委員を指名。</p> <p>2. 議事</p> <p>(1)協働政策課評価対象事業の経過について</p> <p>①習志野市公共サービス市民協働提案制度</p> <p>事務局 資料1、資料2について説明。</p> <p>……………質 疑……………</p> <p>鎌田委員長 習志野市で社会貢献型の提案制度を実施するにあたり、委員の</p>

	<p>皆様に、どのような観点が重要かを御意見いただければと思います。</p> <p>特に商工会議所は、直接、関係があるかと思しますので、野手委員から、ご発言いただければと思います。</p> <p>野手委員 商工会議所会員であります事業所の地域貢献活動の一例をお話しさせていただきます。</p> <p>最初に、某事業所では、定休日に無料でショールームの貸し出しを行っています。ショールームには、キッチンスペースやIHコンロ、冷蔵庫を完備していることから、地域のお母さん方に活用いただいているとのことです。商工会議所では、その活動を広めていくため、「商工習志野」に記事を掲載しました。</p> <p>次に、トラックを所有する運送会社からは、ラッピングバスのように、市のPRをトラックにする提案もありました。こうしたことから、地域貢献につきましては、PRをすることで、各企業から提案の掘り起こしができるのではないかと考えています。</p> <p>鎌田委員長 習志野市では、地元の中小企業から提案される可能性があるというのは、よい流れだと思います。</p> <p>江澤副委員長 習志野市公共サービス市民協働提案制度について、社会貢献型提案制度を研究していきたいということですか。</p> <p>事務局 その通りです。</p> <p>平成22年度の制度発足時に15件あった提案が、平成26年度には1件のみで、その後提案がない状況です。現行の公共サービス市民協働提案制度については、募集期間や提案から採択期間等々の課題に対して、改善策の検討が必要と考えています。</p> <p>江澤副委員長 提案者側とすれば、提案から採択まで、リアルタイムに提案の採否の判断をしてもらいたいと思います。また、この制度は、PR不足もあるのではないかと考えています。</p> <p>事務局 PR不足というのはあるかもしれませんが、市民活動団体も、団体が実施している事業のほかに、市の事業についても実施する余裕がないかもしれないと考えています。</p> <p>鎌田委員長 協働政策課評価対象事業については、3つの事業を一緒に検討し</p>
--	--

	<p>たほうがよいと思いますので、③市民協働型委託事業まで説明をしていただければと思います。</p> <p>(1)協働政策課評価対象事業の経過について</p> <p>②習志野市市民参加型補助金</p> <p>③市民協働型委託事業(地域デビュー支援事業)</p> <p>事務局 資料1及び資料3から資料6について説明。</p> <p>……………質 疑……………</p> <p>牧野委員 公共サービス市民協働提案制度で、千葉市の地域貢献型提案は、予算措置を伴わないということですが、習志野市で地域貢献型提案を取り入れた場合、予算措置をどのように考えていますか。</p> <p>事務局 現在の公共サービス市民協働提案制度は、協働政策課での予算措置はありません。現段階では考えておりません。</p> <p>牧野委員 市民参加型補助金は、団体が実施したい事業を市が資金を出して応援をするということで、協働というより、団体育成だと思います。団体育成をいつまでも重視している場合ではなく、これからは、協働で、公益的なサービスを実施し、成果を出していかなければなりません。団体は、資金提供だけでなく、マネジメントも含め、いろいろなアドバイスがないと育ちません。協働事業ができる団体を育成し、その後、委託協働事業に移行し、地域をつくっていくことが重要です。事業型のNPOなど、地域の課題解決に励む人たちを育成するなどの仕組みを、全体として考えていただきたいと思います。</p> <p>市民協働型委託事業は、現在「担い手を発掘して、今ある団体に結びつける」という地域デビュー支援事業を実施しています。事業型のNPOなど、行政が手を出せない分野の課題解決を、実施していく団体に委託するというイメージをしないと、力を合わせてまちづくりをしていくということにならないと感じています。</p> <p>石津谷委員 補助金で事業を実施した団体が、翌年どうなっているか状況がわからない状態です。補助金がなくなった後、会員からの会費で運営しているという団体もあります。こうした状況から、補助金については、基本的にもう少し考え直さないといけないと思っています。</p> <p>また、公共サービス市民協働型提案制度についてですが、採択後から、現在までの活動状況等が分かりません。</p> <p>次に、地域デビュー支援事業については、私も関わっております</p>
--	--

が、地域デビューする方も減り、行き詰っている状態です。今年度の2月には、「こどもの居場所づくり」をテーマに参加者を募集し、参加者が団体を立ち上げていくという事業を予定していますが、どのような成果が出るかは未だわかりません。

江澤副委員長

補助金を受けた団体及び事業が、その後どうなっているかというのが一番知りたいです。

補助事業の中から市がやるべき仕事を拾い出していただくような仕組みであれば良かったのかなと思います。

井上委員

公共サービス市民協働提案制度についてですが、大企業でないと提案ができないのではないかと感じてしまいます。なぜなら、小さなNPOからの提案でも、各部署で真摯に向き合っていただけるのか、不安があるからです。そのため、職員の意識や、制度がきちんと見えないと応募はないと思います。

次に、市民参加型補助金制度の書式変更については、書きやすくなったと思います。今年度、団体として補助金を応募しました。団体の振り返りをする良い機会になったと思います。

最後に、地域デビュー支援事業については、団体として、応援フェアに参加しました。自分たちの活動を多くの人に見ていただき、参加団体との交流もできました。このままの企画でいいというわけではないですが、なくすことでもないと感じています。

石津谷委員

地域デビュー支援事業の応援フェアについては、「みんなでまちづくり」とほとんど同じことをやっていることや、地域デビューをしようとする人がいなくなっていることが現実問題とと思っています。

江澤副委員長

それは、市民カレッジの動向と似ていると思います。

佐々木委員

現在、市民カレッジでは、卒業後に地域に出て活躍できる人を育てたいという目的で実施しております。1年目は「習志野学」、2年目には、専門コースを設けて、5つのテーマから最低3つのテーマを選択して学習していただいています。

かつては、抽選になるという状況でしたが、現在は、各学年定員が80名で、定員割れの状況です。地域に出て活躍できる人を育てたいという目的で実施するとそれだけ人数は減ってきています。地域デビュー支援事業の参加者の減少傾向は、似ているところがあると思います。

市民カレッジの総人数は減っていますが、最後のアンケートで、卒業生の8～9割は、地域活動をしていきたいと回答していただい

	<p>ます。</p> <p>鎌田委員長 子育て支援の観点からご意見をお願いします。</p> <p>和田委員 習志野市に多くの子育て中の若い人たちに入ってきてほしいという点と、親元近居という点から「子育てハンドブック」の作成を検討しているところです。 また、プレイパークについても検討しているところです。習志野市こどもセンターは、自然豊かな庭を活かして、乳幼児専門のプレイパークに、大久保地区には、学童期を対象にしたプレイパークを作ろうと考えています。 事業を検討する際、すぐに予算の話になります。孫育てハンドブックの作成する場合、作成したものをどのように活用するかということが重要です。その活用については、市内で子育て支援に携わっている市民活動団体や、NPO団体にご意見をいただいたり、相談ができたらと感じています。ただ、市民活動団体と交流ができる、地域デビュー支援事業などに参加することは、市民活動団体とつながる良い機会だとわかっているのですが、時間に追われてしまい、市民協働で事業をする機会を逸してしまっているように思います。市民協働で事業を実施するのは、意見交換などで時間も、エネルギーもいりますが、良い結果が生まれると思います。しかしながら、そこにあたるだけの道筋がなかったり、待ったなしで次に進まなくてはならない状況があるため、市民協働に一步踏み出せず、行政側の方が市民協働に消極的な部分があるのかなと思いました。</p> <p>牧野委員 市民協働は、橋渡しをするコーディネーターがいないと進みません。習志野市では、コーディネーターを担当課が担っていると思います。 富里市には、「とみさと市民活動サポートセンター」があります。そのセンターには、市役所の担当課も相談にきます。例えば、高齢者福祉課から「サロンを開きたいのですが、一緒にやってくれる人はいらっしゃいますか」と相談があった場合、その地域の人たちとつなぐということをしています。 これからは、団体を作るというより、役立つ事業をつくる場所に転化していかないといけないと思います。役立つ事業をつくろうとしないと地域は変わりませんし、協働も進みません。地域の課題解決のためには、市民協働につなぐ役割、機能が一番重要だと思っています。</p> <p>江澤副委員長 まちづくり会議をもっと各部署が活用すれば良いと思います。市の情報を各地域に流すような体制を強化するなどできると思います。市民協働としては、まちづくり会議は良い制度だと思っています。</p>
--	--

	<p>石津谷委員 町会には、いろいろな町会があるので、まちづくり会議が必ず機能するとは限らないと思います。</p> <p>井上委員 町内・自治会には、若い人や賃貸マンションの人は加入しないと思います。町会・自治会の運営には、ご年配の方や昔から住んでいる方になるので、若い力を活かしたいというのであれば、考慮しなくてはならないと思います。</p> <p>鎌田委員長 行政、市民活動団体、まちづくり会議、それぞれに通訳となる人が必要になると思います。そして、全体のコーディネートが重要になると思います。富里市や四街道市に視察に行ってください、どのような試みを習志野市としてやっていくのかを検討していくことが、協働の見直しだと思います。 地域デビュー支援事業は、仲良くやっていきましょうというレベルから、戦略的に課題解決に直に向かうようなところをデビューさせましょうという方向だと思います。町会・自治会と大学生が一緒になって、課題解決し、そこから、起業的なNPOやベンチャーが立ち上がり、商工会議所と一緒に事業をするようになり、そこに、大手企業が飛びついてくるという広がりができます。 習志野市市民協働基本方針を改正する場合、他部署の人も巻き込み、本当に協働をやるという心意気がポイントだと思います。</p> <p>事務局 協働に対する考え方について、変化の時期に来ていると思っています。今年度は部課長会議で2回、協働について発表をしました。今後につきましては、市民協働の考え方が職員に浸透するよう、マニュアルの作成も検討しています。他市の状況ですが、条例や指針の改正を検討していると聞いています。引き続き、他市に視察に行き、習志野市にあった協働のやり方を研究していきたいと思っています。</p> <p>井上委員 市民が考える課題解決と行政の方針がマッチしない場合、仕事が増えることになると思います。市民参加型補助金で実施した事業からピックアップして協働事業を探すのも、一つの方法だと思います。</p> <p>佐々木委員 行政と団体が協働で事業を進めたほうが良い事業もあると思います。公共サービス市民協働提案制度以外でも、各部署で事業者と協定を締結しているケースや、各部署でどのような協働をしたいかというニーズの把握も必要だと思います。やはり、行政と団体とのマッチング、コーディネートを誰がやるのかということが重要だと思います。</p>
--	---

		<p>鎌田委員長 内部調査も重要だと思います。</p> <p>牧野委員 印西市でも市民活動委員会の委員をしておりますが、協働に関する内部調査を実施したところ、委員会で把握していた事業より多くの事業がありました。内部調査をすることで、協働事業の気づきを促すことにもなると思います。</p> <p>石津谷委員 習志野市には、市民活動センターがありません。市民活動センターがあるとよいのではないのでしょうか。</p> <p>牧野委員 市民活動センターが、どのような機能を持っているかが重要だと思います。 市民活動センターでは、人件費が1千万円単位かかります。習志野市にも同じものをという場合、費用対効果を考えなければいけないと思います。</p> <p>事務局 次回の市民協働推進委員会までに、他市への視察及び内部調査の結果報告ができればと思います。</p> <p>鎌田委員長 例えば、「まち・ひと・しごと」政策提案検討会議に参加している3大学の学生に調査を手伝ってもらうのもよいと思います。</p> <p>(1)協働政策課評価対象事業の経過について ④その他</p> <p>事務局 資料1について説明。</p> <p>(2)習志野市市民協働インフォメーションルームに関する要領について</p> <p>事務局 資料7について説明</p> <p>……………質 疑……………</p> <p>江澤副委員長 インフォメーションルームは、誰でも自由に使用できるということですか。</p>
--	--	--

	<p>事務局 その通りです。朝来た人が、席をいくつか押さえてしまう場合もあります。</p> <p>江澤副委員長 受付は必要だと思います。</p> <p>鎌田委員長 インフォメーションルームは、情報の拠点となっています。現場で混乱をしている部分は修正をしていただいて、本格的には、市民協働基本方針の見直しの際、インフォメーションルームの役割についても検討してはいかがでしょうか。</p> <p>(3)習志野市市民参加型補助金平成28年度採択事業の実施状況について</p> <p>事務局 資料8について説明</p> <p>……………質 疑……………</p> <p>江澤副委員長 28年度採択事業の状況はどうですか。</p> <p>事務局 いくつか、具体的に報告いたします。 笑学校が実施している「いきいき健康事業」は、体の健康だけではなく、認知症予防にもつながる事業だと思いました。週に1回集まること、人に会って話をする事で認知症の予防につながると思います。会場と物品があれば、どこでも始められそうなので、他の地域にも広がればよいと思います。 また、ボーイスカウト習志野第2団が、実施している「災害時の避難生活体験」は、参加者が少人数だったのですが、キャンプではなく、災害時にどういったことが必要かということ伝えており、ポリ袋を使用して、ご飯が炊けるなど、災害時に役に立つ知恵を教えてくださいただけるものでした。多くの方が参加できるよう、続けていただきたいと思いました。</p> <p>井上委員 ボーイスカウトとして、初めて会員ではない方を対象に事業を実施しました。団体としては、通常の事業もありましたので、少し大変でした。団体を見ていただくのに良い機会となりました。ポリ袋でのご飯炊きについては、地域でもお願いできないかという申し出がありました。</p>
--	--

	<p>牧野委員 採択事業を協働事業に進化させるとしたら、いきいき健康事業でいえば、参加者の年代、男女別などで、事業に1年間参加したら、腕が上がるようになったとか、外出が増えたとか記録を取ると良いと思います。きっちり記録を取ることで成果が明らかになり、事業化につながります。記録を取るということを団体にアドバイスをしてあげると事業力がつくと思います。言葉ではなく、全て記録に残すことが重要です。きっちり記録で残すことをご指導していただければと思います。</p> <p>鎌田委員長 地域をどのように変えたか、参加者にどのようにインパクトを与えたかということが重要だと思います。</p> <p>3. その他</p> <p>事務局 市民協働基本方針の見直しについては、近隣市でも市民協働の条例や方針の改正をしている状況にあるので、四街道市や富里市などの視察を行いながら、習志野市が抱えている課題をクリアすべき、方向性を見出していきたいと考えております。</p> <p>……………質 疑……………</p> <p>鎌田委員長 タイムスケジュールはどのように考えていますか。</p> <p>事務局 他市への視察、庁内へ協働に関する調査から始めていきたいと思っています。</p> <p>鎌田委員長 庁内調整しながら、スケジュールを決めていくということになりますか。</p> <p>事務局 そのような方向性で考えています。</p> <p>牧野委員 富里市では、新しいことにどんどん取り組んでいます。今、準備段階ですが、商店街と市民活動に寄付を呼びかけようということを行ったりしています。</p> <p>鎌田委員長 委員のみなさま、市民協働基本方針の見直しの件で、事務局が、</p>
--	---

	<p>個別に意見を聴取することがありましたらご協力をお願いします。</p> <p>事務局 平成28年度第3回習志野市市民協働推進委員会につきましては、3月に予定をしています。日程等につきましては、担当より調整をさせていただきたいのでよろしくお願いいたします。</p> <p>……………閉 会……………</p>
--	--

平成28年度第3回習志野市市民協働推進委員会 会議の概要

1	会議名	平成28年度第3回習志野市市民協働推進委員会
2	開催日時	平成29年3月21日(火) 午後2時から4時15分
3	開催場所	サンロード津田沼 6階特別会議室
4	出席者	<p>【委員】 鎌田委員長、江澤副委員長、牧野委員、石津谷委員、杉山委員、野手委員、和田委員、佐々木委員</p> <p>【市側】 齋藤協働経済部長、松岡協働経済部次長</p> <p>【事務局(協働政策課)】 小久保主幹、上野市民協働推進係長、佐々木主任主事</p> <p>傍聴者:1名</p>
5	議題及び 会議の概要	<p>1. 会議録署名委員の指名</p> <p>2. 議事 (1)平成28年度市民活動団体支援の施策について(報告) (2)協働政策課事業の平成28年度協議事項について(報告) (3)市内市民協働事業調査結果について(報告) (4)他市市民協働関係課視察について(報告) (5)習志野市公共サービス市民協働提案制度提案事業の経過報告について(報告)</p> <p>3. その他</p> <p>【会議の概要】</p> <p>1. 会議録署名委員の指名 名簿順により、牧野委員と石津谷委員を指名。</p> <p>2. 議事 (1)平成28年度市民活動団体支援の施策について(報告)</p> <p>事務局 資料1について説明。</p> <p>……………質 疑……………</p> <p>江澤副委員長 大学生地域活動推進会議設置に向けた、地域活動についてのアンケート調査というのはどういうものか。</p> <p>小久保主幹 市民活動団体、町会、社会福祉協議会、商工会議所、3大学及び</p>

	<p>大学生に地域活動について調査した。</p> <p>牧野委員 平成28年度市民活動団体支援の施策についての報告は、アウトプットの実績となっている。やってどうだったのかというアウトカムが必要だと思う。</p> <p>江澤副委員長 実績報告の際、問題点、課題点を示し、意見を出し合ったほうがよいと思う。</p> <p>鎌田委員長 成果を共有するというのは大切なことである。</p> <p>小久保主幹 新年度から、報告書について、アウトカムの部分を追加し、見やすいように工夫する。</p> <p>江澤副委員長 部課長会議での「協働型社会の構築に向けて」の発表内容はどのようなものだったのか。</p> <p>小久保主幹 部課長会議の発表は、8月に、「市民協働についての基本」、「なぜ協働が必要なのか」及び「協働の効果」。11月に、「協働の位置づけ」、「習志野市基本構想の重点プロジェクトについて」及び「協働の状況、協働の進め方」。それぞれ10分間の発表だった。</p> <p>江澤副委員長 参考資料1の平成28年度市民協働事業実施一覧の中にある「まちづくり会議」は、市役所の職員と地元の人たちとの一番いい協働の例だと思う。従来から実施しているまちづくり会議などの市民協働をもっと推進するなどの意見があっていると思う。</p> <p>石津谷委員 自分が関わっている地域デビュー支援事業が、7年続けてきたが、3月31日をもって終了する。とても勉強になった。2月18日に「子どもの居場所づくり」として講座を開催し、その参加者の中の何人かで、新しい団体を立ち上げる方向で動いている。新しい団体の立ち上げができたことは、これまでの成果だと自負している。</p> <p>鎌田委員長 新しい団体が立ち上がるためには、どうしたらいいのかということを考えないと協働創出にならないと思う。</p>
--	--

	<p>杉山委員</p> <p>市民協働を進めるためには、ボランティア補償制度が重要だと思う。もっと言うと「保険の部分を市が補償するから後は、みなさんたち頑張って市民活動を活性化してってください。」と市民に言えるのではないかと思う。ボランティア補償制度について、市民の方達が活動しやすい内容で今後も続けてもらいたい。</p> <p>(2)協働政策課事業の平成28年度協議事項について(報告)</p> <p>事務局</p> <p>資料2について説明。</p> <p>.....質 疑.....</p> <p>江澤副委員長</p> <p>市民参加型補助金は、補助金を交付するだけではなく、交付後の事業の継続など、研究していくべきだと思う。</p> <p>鎌田委員長</p> <p>市民協働の全体像の目標や課題の中で、個別の事業がどのような役割か考えて事業を実施することが重要だと思う。</p> <p>牧野委員</p> <p>市民参加型補助金は、今後見直す予定か。</p> <p>小久保主幹</p> <p>見直しを考えている。市民参加型補助金は、申請件数が、大幅減少している。近隣市の状況を研究し、検討していきたい。</p> <p>牧野委員</p> <p>団体支援のための補助金だけでは、地域課題の解決にはならない。地域課題解決のためには、ニーズ調査が重要だと思う。そのような調査に補助金を交付するとか、ひとつの団体ではなく、いくつかの団体で協働提案をしてきたものに交付するなどもできれば良いと思う。また、講座などで地域課題等を出し合い、そこから提案してもらったりやり方もあると思う。市民活動団体の一番の課題は、資金ではなく人材。ニーズ調査をし、制度設計しないと次の段階に施策がいかないと思う。</p> <p>和田委員</p> <p>市全体で、市民協働について、話し合いの機会が少ないと思う。誰かが、こんなことが必要だとつぶやいたところから、支援が始まらないと、確固したものがないと思う。寄り添い型の支援のようなものか、ネットワークで情報が繋がっているような仕組みができる</p>
--	--

		<p>良いと思う。</p> <p>佐々木委員 公民館や図書館などは、市民協働を意識しなくても、自然にできている。 市民カレッジは、協働の担い手になっていただけるような人を輩出する目的で実施している。苦勞している感はあるが、成果は上がっている。地域デビュー支援事業と市民カレッジのコラボをすると活性化につながるのではないかと思う。</p> <p>野手委員 商工会議所では、新規事業を立ち上げる時に、いろいろなリサーチをする。新しい制度を作っても利用されないと無駄になってしまう。他市への視察などの結果を活かし、利用される仕組みができると、活発なことがいろいろ出てくると思う。</p> <p>鎌田委員長 個別の事業だけに注目するのではなく、事業全体を見渡した時に、何が目標で、何が課題か、それを連結させて何がよいかを考えるべきだと思う。「協働の総働」。総働するために何ができるか検討していただきたい。</p> <p>(3) 市内市民協働事業調査結果について(報告)</p> <p>事務局 資料3について説明。</p> <p>.....質 疑.....</p> <p>質疑なし</p> <p>(4) 他市市民協働関係課視察について(報告) (5) 習志野市公共サービス市民協働提案制度提案事業の経過報告について(報告)</p> <p>事務局 資料4～5について説明。</p> <p>.....質 疑.....</p> <p>鎌田委員長 他市を視察しての所見を伺いたい。</p>
--	--	---

	<p>上野 他市の市民協働の担当者は、比較的経験年数が長い人が多い状況が伺えた。</p> <p>また、四街道市では、市民活動センターの事業を視察した。ひとつの課題について、様々な活動をしている市民が集まり、意見交換会を行っていた。それを年に数回行い、地域課題を研究していた。</p> <p>市民活動センターについては、受付と入口の距離が近く、職員と市民が顔見知りとなり、市民活動団体からの相談がしやすい環境につながっていると思った。</p> <p>石津谷委員 市民協働推進係は、今年5月に、新庁舎へ移転するということだが、相談体制はどのように考えているのか。</p> <p>上野 相談者が、市民協働インフォメーションルームにお見えになった場合は、執務室職員も対応するが、何か不明な点があったら、市民協働推進係の職員が、新庁舎から伺う。</p> <p>石津谷委員 新庁舎からくるということだが、相談業務というのは、何にでも精通している人が常時いる体制を作っておかないと無理ではないか。</p> <p>松岡次長 習志野市市民協働基本方針にもあるが、市の役割として、コーディネーター及びファシリテーターとあるが、不十分だったかもしれないので、これからの課題だと感じた。市民協働推進係が新庁舎に移転したことによる相談体制については、今一度、考えていきたい。</p> <p>江澤副委員長 5月の移動まで、まだ、1か月ある。もう一度考え直す時間はないのか。</p> <p>松岡次長 現段階では、市民協働インフォメーションルームには臨時的任用職員、場合によっては再任用職員も配置し、正規職員は新庁舎に移動する。そこで、政策的な部分、企画的な部分を庁内の体制整備も含めて検討していきたい。相談業務については、職員が市民協働インフォメーションルームに出向くなど、今後検討していきたい。</p> <p>杉山委員 四街道市の提案制度のネーミングは柔らかくて素晴らしいと思った。また、提案事業の事業形態など参考にするとよいのではないか。</p>
--	--

		<p>牧野委員</p> <p>市民活動フェアについては、富里市では、子どものためのプログラムが充実している。若い世代がどうしたら参加するか、ものすごく練られている。</p> <p>地域デビューでは、サポートセンターのプログラムとして、受入れ団体に対するセミナー、体験参加者のみでのまとめの会を実施して、最後の一人がアクションを起こすまでサポートをしている。</p> <p>補助金についても、申請書の書き方セミナーで相談会などを行っている。</p> <p>市民活動センターは、看板を掲げているだけでは活用してもらえない。そこを動かす人が、コーディネーションしないと何にもならない。</p> <p>また、市の職員の異動については仕方がないこと。その為に指針や計画といったものがある。なお、実績報告にアウトカムまで必要なのは、引継ぎのためになるからだ。</p> <p>3. その他</p> <p>小久保主幹</p> <p>習志野市市民協働方針の見直しについては、今回のご意見を参考に、習志野テイスト、習志野らしさを取り入れ、他市の状況も研究し、検討していきたいと考えている。また、職員の市民協働に対する意識啓発について、職員向けのマニュアル等の作成なども併せて検討する。</p> <p>……………閉 会……………</p>
6	問合せ先	<p>所管課名:協働政策課 電話番号:047(453)9337</p>